

【研究テーマ】

黄金比を活用した人をひきつけるサインの開発

メンバー:辻浦木綿子,岡崎陽子,松本貴至,越後康宏  
アドバイザー:越水重臣

1■活動概要と目的.....

本研究の目的は、少子化の課題に対処するために、公共交通機関が直面する通勤妊婦の安全性確保に焦点を当て、デザイン案を研究開発することである。

日本の少子化問題の解決策の一つとして、妊婦の保護は社会全体の責務である。しかし、電車などの公共交通機関は揺れや急なブレーキによる転倒リスクがあり、貧血や立ちくらみが起きやすい妊婦にとって必ずしも安全な環境とはいえない。妊婦の安全を確保するためには、確実に座らせる必要があり、そのためには常に妊婦のために席が空いているように「専用席」の設置が不可欠である。ところが、現状、一般乗客との間には優先席やマタニティマークを巡る認識のズレからくる問題がある。この問題を考慮した上で、両者に軋轢を生まずに妊婦専用席を設けるために、本研究で適切なデザインの研究開発を行なった。

2■活動スケジュール.....

本年度の活動スケジュールを下図に示す。4月から6月にかけて、少子化問題の解決策の一つとして、妊婦の保護は社会全体の責務である点をまとめ東京都主催の事業提案制度プロジェクトへ「妊娠期間中の公共支援の助成について考えるイベント開催」を提言した。また、黄金比を活用したサイン開発に関するデザインの原案及び公共交通機関における新たな人とともにつながるサインに関するデザイン賞への提案活動を実現した。7月～9月は、先行研究調査に加え妊娠中に公共交通機関を利用経験のある妊産婦に対し、デザイン開発のための基礎情報収集を目的とした調査を実施し、国内の優先席及び海外の配慮席（国内の優先席に相当）に対するアンケート結果分析を実施した。10～12月は、先行研究・アンケート結果を踏まえ、論文作成に取り組んだ。1月～3月、作成論文の学会投稿活動を実践し、令和6年6月学会投稿予定。

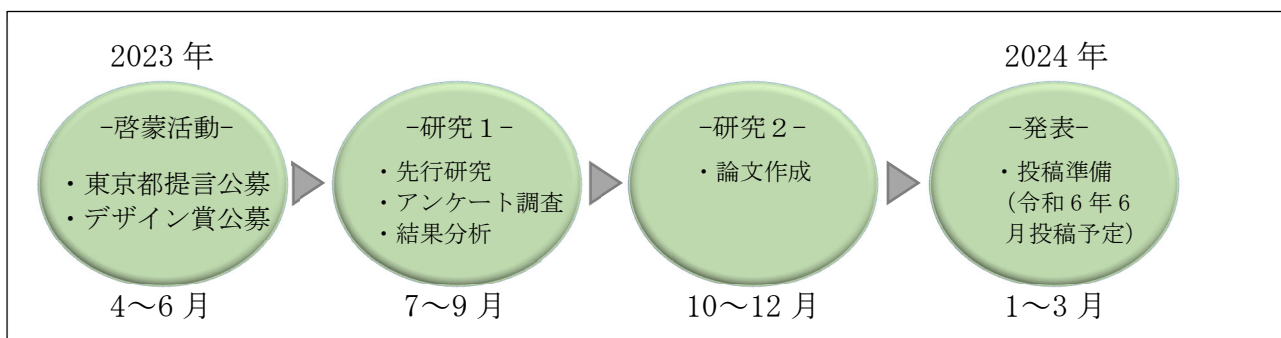


図1 活動スケジュール

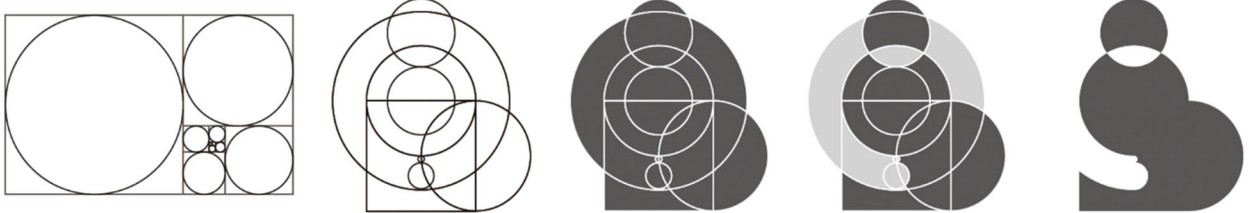
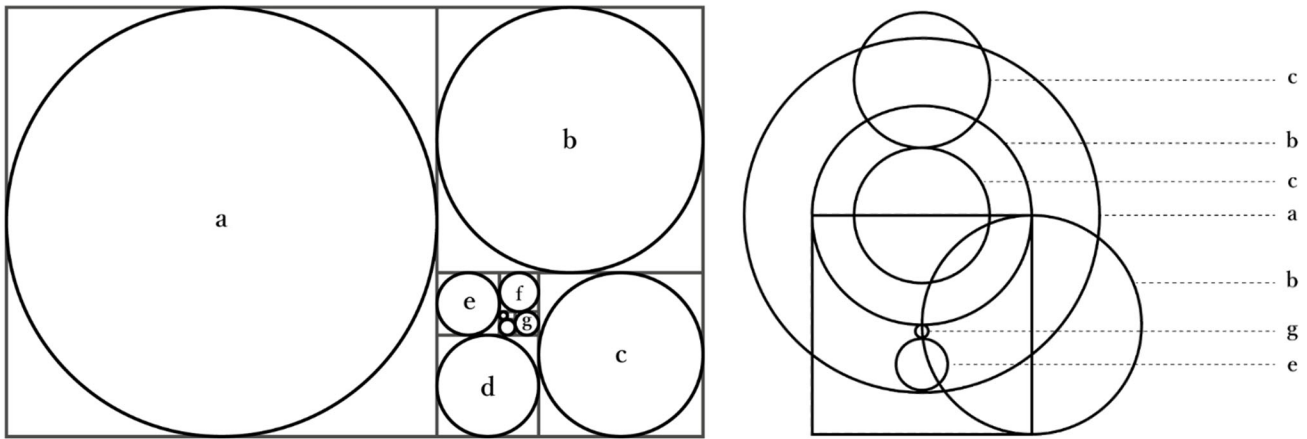


#### 4 ■ 人をひきつけるサインの開発.....

##### ピクトグラム表現

公共交通機関に漸次効果として、妊婦を社会で守る意識づけにつなげるサインに関するデザインを創出しデザイン賞へ提唱活動を実施した。当事者だけでなく、一般乗客にとっても目に快く受け止められるフォルム開発を行った。

刺激的な形で注目させるのではなく、落ち着きと快適さのある調和で惹きつけるために、黄金比を利用した。妊婦を表すピクトグラムは全身の側面図を抽象化したものが多いが、「座る」という動作や状態にフォーカスしたシルエットを表現した。妊婦がお腹を抱え、優しく見つめる姿を模している。



更に人の優しさや心に働きかけるため、ハート型のモチーフをベースにした。



色は、攻撃や注意を示すものや、他の表示で既に使用されているものを避け、且つ穏やかな中間色 PANTONE®15-1331 TCX Coral Reef を選んだ。



・ 特色

Pantone 15-1331 Coral Reef

・ プロセス

C 0% / M 45% / Y 45% / K 0%

## 5 ■ まとめ

継続的学習による社会課題研究を修了生コミュニティ活動指針として、年計画を策定し、上期と下期で活動内容を分け取り組んだ。上期は、PBL の学びを広く社会へ広める啓蒙活動を実施しチーム活動としてのコンピテンシー向上を目指した。下期は、修了生としてのコンテンシー能力をさらに引き上げるため、仮説に留まらず、自らが行動し調査・分析を行うなど、行動分析への取り組みに加え、デザイン設計能力を伸ばすことを目的とした論文投稿へチャレンジを試み、知識・スキルのインプットを論文へアウトプットし、研究テーマを取組む意義を再確認する試みを実施した。

## 6 ■ 今後の予定

本研究では、現行状況の分析および既存のデザインをもとに調査を行い、新たにピクトグラムのデザイン開発を実施した。社会実装に向けては、想定する実施者の公共交通機関、通勤妊婦当事者、一般乗客に、妊婦専用席および開発したピクトグラムに対する評価や意見を収集することが必要である。